



## フィジー良いとこ一度はおいで ～開発途上国の現場から～

南太平洋のフィジーでシニア海外ボランティアとして活動中の札幌出身の八木田さんに現地での生活、活動について語っていただきました。

南太平洋のフィジーは今(7月)が真冬、私の住む首都スバは朝晩は結構涼しく、寝る時タオルケットが欠かせません。

赴任前の研修で、講師の方の「2年後に、元気に任期を終えて帰国することが最優先です」の言葉に励まされ(肩の力が抜けて)、フィジーに来てからは、はや任期の3分の2が過ぎ、お蔭様で元気に過しています。

仕事は、中小零細事業振興のお手伝いですが、私はその中でマイクロファイナンス部門の業務改善活動を行っています。マイクロファイナンス部門は、2000年に国連開発計画(UNDP)の指導で設立され、貧困層、離島、遠隔地のための公的金融機関として、目下事業を国内全域に展開すべく基盤整備を進めているところです。

スバでの日常生活は、日本人同士の交流が盛んで、同好者によるゴルフ、テニス、お食事会等が定期的に行われています。

フィジーでは、昨年12月にクーデターが発生、私達は国際空港のあるナンディに避難しましたが、今回のクーデターが3度目ということもあり、国民は平静で大きな混乱もなく、避難生活も約半月で終了しました。避難生活中も、絵画、ヨガ等多くのサークルが自然発生的にでき、私は、英会話教室に参加していました。今も英会話の練習を兼ねて、毎週、近くの教会の聖書勉強会に参加していますが、先日、宗派を超えた会合に出席する機会があり、仏教者(?)として発言するなどもしました。

フィジーは南太平洋を代表する美しいリゾートの国ですが、果物等美味しい食材の豊富な国でもあります。また、人口の約半分がインドフィジアン(サトウキビ栽培の労働者として130年程前に入植してきたインド人)のため、カレーの美味しい国でもあります。

皆さんも是非フィジーにお越しいただき、美味しいフィジーの食べ物と、そしてフィジーカレーをご賞味ください。

(シニア海外ボランティア 八木田 道敬、フィジー、零細小企業振興)



マイクロファイナンス研修会の参加者と八木田SV



英会話教室に参加する八木田SV



## 高校生国際協力サマーセミナーが開催されました ～開発教育・国際理解教育支援事業の現場から～

8月5日に高校生を対象としたセミナーが開催されました。95名のたくさんの高校生が、アジア、アフリカ、中南米からのJICA研修員、様々な形で国際協力を行っている北海道のNGOの方々、青年海外協力隊のOB・OGと意見交換し、さらに高校生同士の意見交換を通じて、国際協力について多くのことを学びました。

午前の部では高校生が4、5人のグループに別れ、「ミステリーツアー」に参加しました。これは各グループが与えられた質問文を持ってブースを訪ね、研修員やNGO、協力隊OB・OGの方々から答えを聞き出すというゲームです。もちろん研修員の方は日本語を話すことができません。高校生たちは頑張って日本語の質問文を英訳していました。研修員が少し癖のある英語で話し始めると、途端に高校生の表情が曇ります。それでも研修員の言葉に耳を傾ける一生懸命な姿勢は、研修員にとっても話しがいを感じさせるものだったでしょう。少し慣れてくるとゲームのことを忘れて自分の知りたいことを聞いてみたりと、会話も盛り上がり上がっていきました。高校生たちはこの活動を通して様々な国に関することを学び取れたようです。

午後の部では「レヌカ学び」という、ネパールと日本の違いを考えるワークショップを行いました。このワークショップは、自分の中の先入観に気づいてもらうことが第一のねらいです。開発途上国と聞いただけでイメージしがちなことが、実は日本のことを指していたりと、高校生にとっては衝撃的な一面もあったようです。また、グループ内で話し合いをしているうちに仲間同士だんだん打ち解けていき、意見や気持ちを交換・共有している様子は印象的でした。

高校生はそれぞれいろいろな感想を持ったようです。何よりも今回の「であい」をきっかけに国際協力や開発途上国への関心を持ち続けてほしいと思います。

(JICA札幌 大学生インターン(北海道教育大学) 山本)



95名とたくさんの高校生に参加いただきました。



カメルーンからの研修員の話聞く高校生

カメルーン、カーボベルデ、中国、エジプト、ミクロネシア、モンゴル、パプアニューギニア、タジキスタンからの8名の研修員、NGO(フィリピン耳の里親会、どさんこ海外保健協会、セカンドハンド)、3名の青年海外協力隊OB・OGから様々な国の事業や国際協力活動について、話を聞きました。

## 3年間ありがとうございました 岡田国際協力推進員(函館)離任の挨拶

国際協力推進員として函館に赴任して3年。修学旅行くらいでしか来たことのない函館で3年間をすごしました。思い起こせば知り合いのほとんどいない道南でどんな活動になることやらと不安でいっぱいでしたが、JICAや(財)北海道国際交流センター(HIF)のスタッフのみなさん、そして活動を通して出会ったすべての方たちのおかげで、本当に有意義な時間を過ごすことができました。いろいろな人に支えられてきたことを実感したそんな3年間でした。函館での私の活動は終わりましたが、また新しい人生にむけてこれからもがんばっていきたくと思っています。みなさん、本当にありがとうございました!



岡田国際協力推進員の活動の一コマ。2006年夏に函館で開催された高校生を対象とした国際協力プログラムでJICA研修員の母国(タンザニア)の文化を高校生に紹介する岡田推進員(左)